



JSBMR Newsletter No. 21

日本骨代謝学会 / The Japanese Society for Bone and Mineral Research

〒612-8082 京都市伏見区両替町 2-348-302 アカデミック・スクエア内

TEL: 075-468-8772 FAX: 075-468-8773 E-Mail: jsbmr@ac-square.co.jp http://jsbmr.umin.jp

— 国際骨代謝学会 (IBMS) ・ 日本骨代謝学会 (JSBMR) 第 2 回合同国際会議の御礼 —

2013年国際骨代謝学会・日本骨代謝学会 第2回合同国際会議は、国内外より900名を超える方々にご参加を賜り、無事学会を終了することができました。準備・運営に際しましては、行き届かない点多々あったものと存じますが、ご支援・ご参加いただきました皆様に心より御礼申し上げます。

尚、第32回日本骨代謝学会学術集会在来年、2014年7月24日(木)～26日(土)、大阪国際会議場に於いて杉本利嗣会長のもと、開催されます。是非とも多くの先生方にご参加をいただきますようお願い申し上げます。

会長 野田 政樹

(東京医科歯科大学 難治疾患研究所 分子薬理学 教授)

Japanese Day 会長 吉川 秀樹

(大阪大学大学院医学系研究科 器官制御外科学(整形外科) 教授)

～・～・～・～・～・～・ 2013年度の各賞が決定しました ～・～・～・～・～・～・

3月に行われた選考委員会・理事会において、2013年度の各賞が下記のように決定いたしました。

- 【学会賞】** 米田 俊之 (インディアナ大学医学部血液腫瘍部門)
- 【尾形賞】** 福本 誠二 (東京大学医学部附属病院腎臓・内分泌内科)
- 【学術賞】**
- <基礎系> 石井 優 (大阪大学大学院医学系研究科感染免疫医学講座免疫細胞生物学教室)
- <内科系> 今西 康雄 (大阪市立大学大学院医学研究科代謝内分泌病態内科学)
- <内科系> 道上 敏美 (大阪府立母子保健総合医療センター研究所環境影響部門)
- 【研究奨励賞】**
- <基礎系> 小出 雅則 (松本歯科大学総合歯科医学研究所硬組織疾患制御再建学部門)
- <基礎系> 波多 賢二 (大阪大学大学院歯学研究科生化学教室)
- <内科系> 浦野 友彦 (東京大学大学院医学系研究科抗加齢医学講座)
- 【優秀演題賞】**
- <基礎系> 河田かずみ (山梨大学医学部解剖学講座細胞生物学教室)
- 中西 友子 (鳥取大学医学部生命科学科分子生物学分野)
- <臨床系> 大久保直輝 (京都府立医科大学整形外科)
- 蛭名 耕介 (大阪大学大学院医学系研究科器官制御外科学(整形外科))
- 【JBMM 論文賞】** 小林 靖宜 (大阪大学大学院歯学研究科歯科捕綴第一教室)

一名名誉会員からのメッセージ
骨代謝研究と私

大阪大学・白求恩医科大学(中国)名誉教授(理学博士)

鈴木 不二男

私は最初、赤堀四郎先生(阪大理、蛋白研)の下で有機化学の基礎を学び(1953-56)、続いて須田正己先生(阪大微研、医)の門を叩き(1956-60)、後には、竹田義朗先生(阪大医、微研、歯)のご指導を仰いで酵素化学および代謝調節研究の方法論を学んだ(1957-74)。次いで、Fulbright 研究員として滞在したカリフォルニア大学生化学部(Berkeley)では嫌気性細菌を用いてビタミン B12 補酵素を必要とする酵素の研究を行った(1961-64)。さらに後には、文部省在外研究員としてニューヨーク州立大学医学部(Syracuse)に客員教授として滞在した(1974-75)。

1960 年、大学院理学研究科を修了した後、不思議な御縁で竹田先生のお供で阪大歯学部助手として生化学講座の創設に参画したものの、初期の十数年間は微生物やラットの肝臓あるいは脂肪組織など、**柔らかい組織**ばかりを相手にして一般的な生化学の研究に打ち込み、ATP クエン酸リアーゼの研究では「日本生化学会奨励賞」を受賞するなど、ある程度の成果を収めたものの、そのような研究は歯学部の人々には何ら関心を呼ばなかった。そこで**硬組織**を相手にして、しかも生化学的にも興味深い研究ができぬものかと模索していたところへ、整形外科から当教室へ研究に来ておられた下村 裕先生の「内軟骨性骨形成では成長軟骨細胞が最も重要な役割を演ずる」というお考えに共鳴し、当時、大学院生であった米田俊之君(前理事長)とともに、軟骨細胞から出発してどのような機構で骨がつくられるかという謎の解明に取り組んだ。そこで下村先生に連れられて米田君とともに第 6 回(1973)骨代謝研究会(骨代謝学会の前身)に参加した。骨代謝学会と私との関係は、このようにして始まったのである。その結果、哺乳類の成長軟骨細胞の培養に成功し、この細胞が特定の条件で骨形成能を発現するとともに、多くのホルモンや各種成長因子に応答することが分かった。その後、歯学部はもとより医、理、農学部をはじめ民間各社研究所などの多くの若い方々が、私が設定した問題に興味を持って頂いたお陰で、軟骨由来軟骨細胞増殖制御因子や腫瘍血管新生抑制因子などの同定、さらには成長軟骨細胞と骨髄細胞の逐次混合培養系や成長軟骨細胞の高密度浮遊培養系を利用した「軟骨細胞完全分化モデル系」の研究にまで発展させることができた。

その他、骨代謝学会と私との関係で忘れられないのは、衰退していた JBMM の**再建**と**日本学会事務センターの倒産**というとんでもない出来事である。JBMM は 1983 年に骨代謝学会の生みの親である藤田拓男先生によって季刊の形で創刊され、自ら英文校閲を奉仕で担当されるなど大変ご苦労されたと同っている。ところが、藤田先生のご退官後は投稿数が先細りとなり 1993 年以降は年間 2 号を発行するのがやっとという状態に陥っていた。私は Current Contents にも搭載されていないし、impact factor も付いていないような英文誌を維持するのは予算の無駄遣いであると考えていたにも拘わらず、1993 年の理事会で日本からの情報発信には

やはり英文誌が不可欠であるとの結論に達したとのことで、出版社も Springer International に代えるからと何故か私に Editor-in-Chief を引き受けるよう強く要請された。私としては困惑せざるをえなかったが、とうとう固辞しきれなくなって、この要請に応じることになったものの、この年(1994)は投稿論文が僅かに2編しかないという悲惨な状態で手の打ちようがなかった。したがって偶々、その年に海外から二十数名の研究者を招いて開催した「国際軟骨代謝シンポジウム」(千里ライフサイエンスセンター)の抄録を掲載してページを埋めるという姑息な手段を選ばざるをえなかった。そこで、当時の高橋榮明理事長、久米川正好、清野佳紀両編集担当理事および Springer International のご協力を得て、Editorial Board の若返りによる抜本的な改組、International Advisory Board の新設、優れた Editorial Secretary の採用、編集事務局の新設等に取り組むとともに内容面では極めて不備であった投稿規程を全面的に改訂し、海外の著名な研究者に依頼して Review Article を掲載することに着手した。さらに最も重要なことは国内の有力な研究室、少なくとも理事の研究室からは積極的に投稿して頂かねばならないと理事会で粘り強く要請した。その結果、徐々に投稿数が増え、2000年になってやっと impact factor が付き、2003年には Current Contents にも搭載された。本件については Lawrence Raisz、Gregory Mundy、Gideon Rodan 各先生に推薦状を書いて頂くなど側面的にご協力を頂いたが、今や三先生ともご他界になったのは極めて残念である。ところが、2004年には編集事務を委託していた日本学会事務センターの予期せぬ倒産に遭遇し JBMM も莫大な被害を蒙り、またまた危機に陥ったが、思ったよりも速く回復することができたのは当時の清野佳紀理事長のご尽力によるところが大きかった。当初は質の低い投稿論文を reject することなど思いもよらなかったが、現在は海外からの投稿も増えてきたので論文の採択率も 50%以下となり、impact factor も Calcified Tissue International の値を抜くところまで成長している。衰退していた頃を身を以って体験した私としてはまさに隔世の感がある。その間、私の様々な提案に応じて頂いた役員をはじめ、会員の方々に深く感謝する次第である。

日本骨代謝学会と JBMM の一層の発展を祈り上げます。

2013 年度 日本骨代謝学会 会務報告 (2012 年 10 月～2013 年 5 月末)

■2012 年度 第 3 回理事会議事録■

日 時: 2012 年 10 月 27 日(土) 12 時 30 分～14 時 00 分
会 場: 東京国際フォーラム 4 階 G405
議 事: 本理事会の議事録署名人は、井樋理事、福本理事が
担当することとした。

< 報告事項 >

1. 庶務報告(井樋理事)

井樋理事より、2012 年 9 月 30 日時点での会員数、会費納入
状況について報告があり、了承した。

2. 会計中間報告(福本理事)

福本理事より、2012 年 9 月 30 日時点での会計中間報告があ
り、了承した。

3. 各種委員会報告

1) あり方委員会(加藤委員長)

加藤委員長より、第 30 回骨代謝学会において開催したあり
方委員会企画が成功裡に終了し、第 32 回骨代謝学会に
おいても継続して企画を進める予定である旨、報告があつ
た。また、以下 3 つの提案があり、下記の通り了承した。

- ・大会での申し送り事項を常設事務局で作成・管理しては
どうか。また、事務業務を一部常設事務局で担当してはど
うかとの提案があり、継続して審議することとした。
- ・日本骨粗鬆症学会との合同シンポジウムを開催してはど
うかとの提案があり、継続して審議することとした。
- ・日本女性医学学会へ、本学会との合同シンポジウムの開
催を依頼してはどうかとの提案があり、第 32 回骨代謝学会
での開催を目指し、東京医科歯科大学周産・女性診療科
の寺内公一先生へ日本女性医学学会に打診いただく窓
口を依頼することとした。

2) 国際渉外委員会(福本委員長)

福本委員長より、主に以下の報告があり、了承した。

- ・ASBMR プレジデントの Keith Hruska 先生、ECTS プレジ
デントの Bente Langdahl 先生より、ASBMR・ECTS・JSBMR
を含む 7 学会 合同で International Federation of
Musculoskeletal Research Societies (IFMRS) を立ち上げ
たい旨の依頼があつた。今後の具体的な方向性は未定だ
が、筋肉分野の研究者を取り込むため、本学会としても積
極的に関わっていききたい。
- ・IBMS より、IBMS Society Member として JSBMR に加入して
ほしい旨の打診があつた。Society Member となった場合の
特典として、BoneKEy へのフリーアクセス、IBMS 役員選挙
の投票権、Travel Award への応募資格、IBMS ならびに
Society Member が開催する大会参加費の割引等がある
一方で、会費として JSBMR 会員一人あたり年間 40 ドルを

支払わなくてはならない。本委員会としては国際化を推進
するためにも Society Member 加入には賛成だが、提案さ
れた会費額の支払いは財政的に厳しいため、IBMS に対
して JBMM へのフリーアクセスを条件に会費の割引が可
能かどうか確認を行う予定である。その後、理事各位へ
Society Member 加入の賛否について諮りたい。

・平成 25 年度の Travel Award は 2013 年 9 月に開催される
ANZBMS 23rd Annual Scientific Meeting (於:メルボルン)
参加者に対して支給する予定である。また、Travel Award
の受賞者数は毎年の学術集会における登録演題の査読
点数上位 25 名と決まっているが、近年、製薬企業からの
寄付金の集まりが悪いため、今後は寄付金額の実績総額
から逆算し、受賞者数を決定することとした。

3) JBMM 編集委員会(米田理事長)

米田理事長より、JBMM の投稿状況、発行状況等について、
主に以下の報告があり、了承した。

- ・採択率が昨年より下がっているため、論文を育てていくと
いう趣旨のもと審査を行っていただき、Major revision と
Reject で判定が分かれた場合等は出来るだけ Major
revision の判定をしてほしい。
- ・新規投稿の論文種類は 10 月 10 日現在で Original
Article 213 編、Case Report 25 編、Short Communication 8
編、Review Article 3 編、他となっており、Case Report の投
稿数が増えている。
- ・10 月 10 日時点の国別投稿状況としては国内 24%、海外
76%となっており、今年の投稿数は昨年の投稿数を上回
る予定である。

4) 臨床プログラム推進委員会(杉本委員長)

杉本委員長より主に以下の報告があり、了承した。

- ・第 30 回骨代謝学会にて開催されたカレントコンセプトにお
いて、福本委員が作成した病・骨軟化症診断マニュアル
の発表があり、そこで寄せられたパブリック・コメントを取
り入れた診断マニュアルを作成した。今後の予定としては、
2013 年 1 月開催の厚生労働省の班研究、4 月開催の内
分泌学会においてパブリック・コメントを収集し、最終版を
完成させる予定である。
- ・ビタミン D 欠乏症不足症の診断ガイドラインについても
2013 年を目途に作成する予定である。

5) 骨粗鬆症患者 QOL 評価検討委員会: 報告事項なし

6) 骨密度基準値設定委員会: 報告事項なし

7) 広報委員会(萩野委員長)

萩野委員長より、主に以下の報告と提案があつた。

- ・学会ホームページを定期的に確認し、意見をいただくホ
ームページ改善協力委員を複数名選出することとなり、現
在波多委員より、東北大学病院矯正歯科の松原琢磨先
生の推薦をいただいている。
- ・学会ホームページデザインの全面改訂を行ってはどうかと

の提案があり、了承した。

8) BP 製剤関連顎骨壊死検討委員会(米田理事長)

米田委員長より、骨粗鬆症治療薬注射製剤の販売が開始されたことに伴い、BRONJ ポジションペーパーの改訂版を発行する予定である旨、また、現在までに製薬企業 14 社から 77,743 部の購入申込みが来ている旨、報告があった。

9) ステロイド性骨粗鬆症管理と治療のガイドライン改訂委員会(宗圓理事)

宗圓理事より、国内で行っているステロイド性骨粗鬆症の 2 つのコホートデータの解析結果をもう 1 つの縦断コホートにより整合性を確認する統計処理が終了し、今後は田中良哉委員が取りまとめている 1 次予防のコホートで最終的な検証作業を行い、スコア化したステロイドガイドラインの作成を進める予定である旨、報告があった。

10) 椎体骨折評価委員会(宗圓理事)

宗圓理事より、6 つの学会(日本骨粗鬆症学会、日本骨形態計測学会、日本整形外科学会、日本脊椎脊髄病学会、日本放射線医学会、日本骨代謝学会)において評価基準最終改訂(案)が承認され、JBMM への投稿に向けて準備を進めている旨、報告があった。

11) 会員数増加検討委員会(田中委員長)

田中委員長より、第 30 回骨代謝学会において「筋/腱/靭帯研究」をテーマにシンポジウムを開催した旨、報告があった。また、以下の提案事項が出され、下記の通り了承した。

- ・理工学部や薬学部の領域拡大を目指し、大阪大学大学院工学研究科マテリアル生産科学専攻の中野貴由先生、東京医科歯科大学医歯学総合研究科システム発生・再生医学の浅原弘嗣先生に本委員会の委員として就任いただいてはどうかとの提案が出され、了承した。
- ・臨床研究のための公募プロジェクトを立ち上げてはどうかとの提案が出され、具体的な内容について本委員会で引き続き検討することとした。

12) 原発性骨粗鬆症の診断基準改訂検討委員会(福永委員長)

福永委員長より、9 月に開催された骨粗鬆症学会でのパブリック・コメントを反映した診断基準最終案の報告があり、了承した。今後の予定として骨粗鬆症学会理事会の承認を受けた後、JBMM への投稿に向けて英文化に取りかかる予定である旨、合わせて報告があった。

4. 第 30 回日本骨代謝学会学術集会終了報告(加藤会長)

加藤会長より、第 30 回骨代謝学会に 1,100 人以上の多数の参加者が来場し、盛会裡に終了した旨、また、大会余剰金が発生する予定である旨の報告があった。

5. IBMS-JSBMR 2013 準備状況について(野田会長)

IBMS-JSBMR 2013 実行委員会にて報告

6. 第 32 回日本骨代謝学会準備状況について(杉本会長)

杉本会長より、第 32 回日本骨代謝学会の日程および会場について、2014 年 7 月 24 日(木)～26 日(土)に、大阪国際会議場で開催を予定している旨、報告があった。

7. 学会誌掲載論文の転載依頼について(米田理事長)

米田理事長より、前回理事会以降に依頼のあった、骨粗鬆症の予防と治療ガイドライン 2011 年版の転載依頼 18 件、原発性骨粗鬆症の診断基準の転載依頼 8 件、ステロイドガイドラインの転載依頼 3 件、骨粗鬆症の予防と治療ガイドライン 2006 年版の転載依頼 2 件、JBMM 掲載論文の転載依頼 2 件、BRONJ ポジションペーパーの転載依頼 1 件について報告があり、了承した。

8. その他

a) 第 33 回日本骨代謝学会準備状況について(高橋第 33 回会長)

高橋会長より、第 33 回日本骨代謝学会の日程、会場について、2015 年 7 月 23 日(木)～25 日(土)に、京王プラザホテル(新宿)で開催を予定している旨、報告があった。

< 審議事項 >

1. 新評議員の推薦について(米田理事長)

滝川評議員、窪木評議員より久保田聡先生の評議員推薦、ならびに高橋理事、宇田川評議員より小林泰浩先生、中村浩彰先生の評議員推薦があり、全会一致で承認した。

2. 2013 年度各賞選考スケジュールおよび審査について(米田理事長)

米田理事長より、2013 年度の学会賞、学術賞、研究奨励賞、優秀演題賞、JBMM 論文賞の選考スケジュール(案)の提示があり、承認した。また、学術賞、研究奨励賞については、応募締切日を 2013 年 1 月 31 日(木)にすることとした。

3. 次期役員および今後の次期役員選考方法について(米田理事長)

今後の役員選出方法について協議した結果、現行の選出方法を継続してはどうかとの意見や、評議員の投票による選出方法も将来考えていくべきではないかとの意見が出され、継続して審議していくこととした。

4. 学会会則の改訂について(米田理事長)

米田理事長より、学会会則第 3 章「評議員の選出および任期」第 10 条を一部改訂してはどうかとの提案が出され、下記の通り改訂することが承認された。

(改訂前)満 70 歳まで評議員を継続した者は、70 歳を超えた年度より功労評議員となり、年会費は免除されるが評議員の資格を継続して有する。

(改訂後)満 70 歳まで評議員を継続し、かつ本会の学術研究に功績があり、理事会が適当と認めた者は、70 歳を超えた年度より功労評議員となり、年会費は免除されるが評議員の

資格を継続して有する。

5. その他

a) 平成 25 年度科学研究費補助金申請について(米田理事長)

平成 25 年度科学研究費補助金「国際情報発信強化」の取組名称について検討した結果、「日本骨代謝学会英文誌 JBMM の国際情報発信力強化に向けた取り組み」という名称で申請を進めることとした。

b) 福島県での学術講演会における後援依頼について(加藤委員長)

加藤委員長より、復興事業の一環として、2013 年 1 月、3 月にそれぞれ旭化成ファーマ(株)、ファイザー(株)の主催で福島県の相馬にて開催される学術講演会に際し、本会より後援をお願いしたい旨の申し出があり、全会一致で承認した。

■2012 年度 第 4 回理事会議事録■

日時: 2013 年 3 月 2 日(土) 13 時 30 分～15 時 30 分

会場: 千里ライフサイエンスセンター 6 階 601 号室

議事: 本理事会の議事録署名人は、伊東理事、小守理事が担当することとした。

<報告事項>

1. 庶務報告(米田理事長)

米田理事長より、2013 年 1 月 31 日現在の会員数、会費納入状況について報告があり、了承した。

2. 会計中間報告(福本理事)

福本理事より、2013 年 1 月 31 日現在の会計中間報告があり、了承した。

3. 各種委員会報告

1) あり方委員会(加藤委員長)

加藤委員長より主に以下の報告と提案があり、了承した。

- ・委員会にて骨代謝(サマー or ウィンター)スクールの開催ならびに準備委員会を設立してはどうかとの提案が出された旨、報告があった。検討した結果、数年後の開催を目指し準備委員会を設立することとし、委員として今井祐記先生、中島友紀先生、波多賢二先生を指名することとした。
- ・委員会にて学会の利益相反について理事会で一度議論してはどうかとの提案が出された旨、報告があった。協議した結果、今年の第 31 回骨代謝学会より演題発表時の COI スライド表示を義務付けることとした。
- ・開業医や企業関係者の学術集会への参加を促すために臨床系のセッション(骨粗鬆症治療薬のガイドラインに関するセッション等)を開催してはどうかとの提案が出された旨、報告があった。協議した結果、臨床系セッションを開催する際に

は上記関係者が参加しやすい日程・時間帯等を考慮してもらおうと大会長へ申し入れることとした。また、学術集会におけるエビデンスレビューの開催についても新たに提案があり、次回の委員会にて検討することとした。

- ・毎年中外製薬(株)が主催している Bone Research Seminar でのプログラム「Topics from the ASBMR」(ASBMR の Young Investigator Award 受賞者を日本に招聘して講演いただくセッション)が数年後に終了する予定であることから、前述のプログラムを学会期間中に開催(学会主催または中外製薬(株)との共催という形で)してはどうかという案が出された旨、報告があった。

2) 国際渉外委員会(福本委員長)

福本委員長より、主に以下の報告があり、了承した。

- ・IBMS の Society Member 加入に伴い発生する会費 10 万ドル(3 年分)の支払いについては、一般会計の財政が厳しいため特別会計から支出する予定である。また、Society Member の会員特典を受けるために必要な個人情報登録アンケートを会員に配信しているが、現状の回答数が 400 名弱と少ないため、今後事務局より督促メールを送る予定である。
- ・2013 年度 Travel Award は 2 社(第一三共;50 万円、MSD; 金額未定)より寄付が確定しているが、依然寄付金の集まりが悪いので、賛助企業へ改めて趣意書を送る予定である。

3) JBMM 編集委員会(米田理事長)

米田理事長より、JBMM の投稿状況、発行状況等について、主に以下の報告があり、了承した。

- ・新規投稿の論文種類は 2 月 20 日現在で Original Article 273 編、Case Report 27 編、Short Communication 9 編、Review Article 7 編、他となっている。Case Report ならびに Short Communication については投稿数が増えてきているが掲載枠は限られているため、出来るだけ厳しく審査してほしい。
- ・2 月 20 日時点の国別投稿状況は国内 35%、海外 65%となっており、今年の投稿数は昨年の投稿数を上回る予定である。

4) 臨床プログラム推進委員会: 報告事項なし

5) 骨粗鬆症患者 QOL 評価検討委員会: 報告事項なし

6) 骨密度基準値設定委員会: 報告事項なし

7) 広報委員会(伊東理事)

伊東理事より、2013 年 1 月発行の Newsletter No.20 に細谷憲政名誉会員の寄稿文が掲載された旨、報告があった。

8) BP 製剤関連顎骨壊死検討委員会(米田委員長)

米田委員長より、BRONJ ポジションペーパー 2012 年改訂版を発行し、現在までに製薬企業 16 社; 計 186,743 部の購入申込みが来ている旨、報告があった。

9) ステロイド性骨粗鬆症管理と治療のガイドライン改訂委員会(田中副理事長)

田中副理事長より、1 月 26 日に開催した作業部会において骨折予測因子の解析中間報告があり、カットオフ値を 5 とした上でガイドラインの作成を進めることが決定した旨、報告があった。

10) 椎体骨折評価委員会(宗圓理事)

宗圓理事より、評価基準の日本語版が Osteoporosis Japan、英語版が JBMM へそれぞれ掲載される予定である旨、報告があった。

11) 会員数増加検討委員会(田中委員長)

田中委員長より、学術集会における専門医(認定医)の単位認定について新たに日本腎臓学会の承認を得た旨、報告があった。

12) 原発性骨粗鬆症の診断基準改訂検討委員会(宗圓理事)

宗圓理事より、診断基準の日本語版が Osteoporosis Japan、英語版が JBMM へそれぞれ掲載される予定である旨、報告があった。

4. IBMS-JSBMR 2013(第31回学術集会)準備状況について(吉川 Japanese Day 会長)

吉川 Japanese Day 会長より、IBMS-JSBMR 2013(第31回学術集会)の準備状況について主に以下の報告があった。

- ・IBMS-JSBMR 2013 の一般演題は計 301 題(ポスター221 題、オーラル 45 題、オーラル/ポスター35 題)、出展企業は計 18 社である。
- ・Japanese Day の一般演題は計 73 題(ポスター58 題、オーラル 15 題)、企業セミナーは計 8 枠(サテライトセミナー2 枠、イブニングセミナー2 枠、ランチョンセミナー2 枠、スポンサーセミナー2 枠)である。
- ・現在までの事前登録者数は 215 名である。
- ・日本製薬団体連合会から 2,000 万円の寄付が確定した。

5. 第32回日本骨代謝学会準備状況について(米田理事長)

米田理事長より、第 32 回日本骨代謝学会の日程および会場について、2014 年 7 月 24 日(木)~26 日(土)に大阪国際会議場で開催を予定している旨、報告があった。

6. 骨粗鬆症の予防と治療ガイドライン 2011 年版英文版の Archives of Osteoporosis への投稿について(米田理事長)

米田理事長より、骨粗鬆症の予防と治療ガイドライン 2011 年版の英文版を Archives of Osteoporosis へ投稿し、投稿費用として 742,000 円(計 2,226,000 円を日本骨代謝学会・日本骨粗鬆症学会・骨粗鬆症財団の 3 団体で折半)が発生した旨報告があった。また、今回投稿した論文の簡略版を JBMM に掲載する予定である旨、合わせて報告があった。

7. 学会誌掲載論文の転載依頼について(米田理事長)

米田理事長より、前回理事会以降に依頼のあった、骨粗鬆症の予防と治療ガイドライン 2011 年版の転載依頼 21 件、原発性骨粗鬆症の診断基準の転載依頼 6 件、BRONJ ポジションペーパーの転載依頼 5 件、骨粗鬆症の予防と治療ガイドライン 2006 年版の転載依頼 2 件、JBMM 掲載論文の転載依頼 2 件、ステロイドガイドラインの転載依頼 1 件、骨粗鬆症の予防と治療ガイドライン 2011 年版ダイジェスト版の転載依頼 1 件について報告があり、了承した。

8. その他

a) 第 87 回日整会シンポジウム・パネルディスカッションへの提案について(米田理事長)

日本整形外科学会より第 87 回日整会シンポジウム・パネルディスカッションへのプログラム提案依頼があり、本学会から中島友紀先生の案を提出した旨、報告があった。

<審議事項>

1. 新評議員の推薦について(米田理事長)

各評議員より下記 7 名の新評議員推薦があり、全会一致で承認した。

- ・阿久根 徹 新評議員
(推薦者:藤原佐枝子評議員、吉村 典子評議員)
- ・飯村 忠浩 新評議員
(推薦者:西村 理行評議員、山口 朗評議員)
- ・石井 優 新評議員
(推薦者:大藪 恵一理事、松本 俊夫監事)
- ・江面 陽一 新評議員
(推薦者:野田 政樹理事、二藤 彰評議員)
- ・北澤 莊平 新評議員
(推薦者:今村 健志評議員、山口 朗評議員)
- ・北澤 理子 新評議員
(推薦者:今村 健志評議員、山口 朗評議員)
- ・波多 賢二 新評議員
(推薦者:今村 健志評議員、西村 理行評議員)

2. IBMS/JSBMR 役員のイブニングディナーについて(米田理事長)

米田理事長より、IBMS の Kronenberg 会長より IBMS-JSBMR 2013 前日の 5 月 28 日(月)に IBMS と本学会の理事関係者を交えての夕食会を開催してはどうかとの提案があった旨報告があり、了承した。

3. 年会費の改訂について(米田理事長)

米田理事長より、近年の年会費収入減少により厳しい財政運営が続いていることを鑑み、学会財政の健全化を図る目的で年会費(正会員、学生会員)の値上げについて以下の通り提案があり、了承した。

<正会員>

- (現 行) 9,000 円
- (改訂案) 10,000 円(1,000 円値上げ)

<学生会員>

- (現 行) 4,000 円
- (改訂案) 5,000 円(1,000 円値上げ)

4. 学術賞・研究奨励賞・優秀演題賞・JBMM 論文賞の選考について(米田理事長)

米田理事長より、各賞応募者の提示があり、事前審査および本

理事会での協議の結果、下記の候補者を今年度の受賞とする旨、承認した。

【学術賞】

＜基礎系＞ 石井 優

(大阪大学大学院医学系研究科感染免疫医学講座免疫細胞生物学教室)

＜内科系＞ 今西 康雄

(大阪市立大学大学院医学研究科代謝内分泌病態内科学)

＜内科系＞ 道上 敏美

(大阪府立母子保健総合医療センター研究所環境影響部門)

【研究奨励賞】

＜基礎系＞ 小出 雅則

(松本歯科大学総合歯科医学研究所硬組織疾患制御再建学部門)

＜基礎系＞ 波多 賢二

(大阪大学大学院歯学研究科生化学教室)

＜内科系＞ 浦野 友彦

(東京大学大学院医学系研究科抗加齢医学講座)

【優秀演題賞】

＜基礎系＞ 河田 かずみ

(山梨大学医学部解剖学講座細胞生物学教室)

＜基礎系＞ 中西 友子

(鳥取大学医学部生命科学科分子生物学分野)

＜臨床系＞ 大久保 直輝

(京都府立医科大学整形外科)

＜臨床系＞ 蛭名 耕介

(大阪大学大学院医学系研究科器官制御外科学(整形外科))

【JBMM 論文賞】

小林 靖宜 (大阪大学大学院歯学研究科歯科捕綴第一教室)

5. 学会賞の選考について(田中副理事長)

田中副理事長より、学会賞受賞者として米田理事長の推薦があり、全会一致で承認した。

6. 尾形賞の選考について(米田理事長)

米田理事長より、尾形賞受賞者として福本理事の推薦があり、全会一致で承認した。

7. 次期役員を選出について(米田理事長)

米田理事長より、宗圓理事・水沼理事・萩野理事(外科系)、米田理事長(基礎系)、太田監事(監事)の5名が任期満了となる旨報告があった。また、前回理事会以降に新理事候補者の推薦を募った結果、外科系6名(改選枠3名)、基礎系5名(改選枠1名)、監事3名(改選枠1名)の候補者推薦があった旨、報告があった。

理事・監事による投票の結果、下記の候補者を理事会の満場一致で選出し、評議員会・総会に諮ることとした。

【新役員候補】

理事

＜内科系＞

・伊東 昌子 → (留任)

・田中 良哉 → (留任)

・大菌 恵一 → (留任)

・福本 誠二 → (留任)

＜外科系＞

・井樋 栄二 → (留任)

・宗圓 聰 → 遠藤 直人(新潟大・医歯・整形外科)

・水沼 英樹 → 田中 栄(東京大・医・整形外科)

・萩野 浩 → 吉川 秀樹(大阪大・医・整形外科)

＜基礎系＞

・小守 壽文 → (留任)

・高橋 直之 → (留任)

・野田 政樹 → (留任)

・米田 俊之 → 高柳 広(東京大・医・免疫学)

監事

・太田 博明 → 米田 俊之(インディアナ大・医・血液腫瘍)

・松本 俊夫 → (留任)

なお、理事候補者の選出方法がこれまで会則に明文化されていなかったため、会則へ追記する方向で改訂案を検討していくこととした。

■2013 年度 第 1 回理事会議事録■

日 時：2013 年 5 月 27 日(土) 15 時 30 分～17 時 00 分

会 場：神戸国際会議場 4 階 会議室 403

議 事：本理事会の議事録署名人は、宗圓理事、高橋理事が担当することとした。

＜報告事項＞

1. 庶務報告(大菌理事)

大菌理事より、2013 年 4 月 30 日時点での会員数、会費納入状況ならびに 2012 年度入会者・退会者の内訳について報告があり、了承した。また、5 年以上の年会費長期未納者について提示があり、関係の滞納者へ督促する旨、了承した。

2. 各種委員会報告

1) あり方委員会(加藤委員長)

加藤委員長より主に以下の報告と提案があり、了承した。

・委員会にて骨代謝(サマーor ウィンター)スクールの準備委員会委員として臨床系分野や企業からの委員を追加しては

どうかとの提案が出された旨、報告があった。検討した結果、新委員として山岡邦宏先生(産業医科大学第一内科)、山本昌弘先生(島根大学医学部内科学講座内科学第一)、荒起修様(中外製薬株式会社プライマリー製品政策部)を推薦することとした。

- ・広報委員会に若手の先生を追加してはどうか。
- ・開業医や企業関係者を対象としたテクニカルセミナーの開催、ならびに開催のためのワーキンググループを設立してはどうか。
- ・地方にいる会員の利便性も考慮し、学会の開催場所を東京／大阪に固定せず、それ以外の地方都市で学会を開催してはどうか。

2) 国際渉外委員会(福本委員長)

福本委員長より、主に以下の報告があり、了承した。

- ・IBMS Society Member の会員特典を受けるために必要な個人情報登録アンケートを会員に配信しているが、現状の回答数が約 700 名と少ないため、未回答の会員へ引き続き督促を行う予定である。
- ・2013 年度 Travel Award の受賞者 11 名が決定し、1 名につき 15 万円の Grant を支給する予定である。

3) JBMM 編集委員会(米田理事長)

米田理事長より、JBMM の投稿状況、発行状況等について、主に以下の報告があり、了承した。

- ・新規投稿の論文種類は 5 月 15 日現在で Original Article 119 編、Case Report 10 編、Short Communication 12 編、Review Article 5 編、他となっている。
- ・5 月 15 日時点の国別投稿状況は国内 15%、海外 85% となっており、今年の投稿数は昨年を上回る予定である。
- ・日本学術振興会へ申請していた平成 25 年度科研費「国際情報発信強化」について不採択の通知があった。

4) 臨床プログラム推進委員会(杉本委員長)

杉本委員長より、主に以下の報告があり、了承した。

- ・くる病・骨軟化症の診断マニュアルのパブリック・コメントを現在収集しており、今年度中を目途にガイドラインを作成する予定である。
- ・ビタミン D 欠乏症不足症の診断ガイドラインは岡崎委員を中心に素案作成が進められており、血清 25OHD の保険適用の進捗状況については次回委員会で確認する予定である。
- ・整形外科、産婦人科の臨床プログラムならびに副甲状腺機能低下症に対する PTH 治療の進捗状況についても次回委員会で確認する予定である。

5) 骨粗鬆症患者 QOL 評価検討委員会: 報告事項なし

6) 骨密度基準値設定委員会: 報告事項なし

7) 広報委員会(萩野委員長)

萩野委員長より、2012 年度第 3 回理事会以降の広報委員会の活動報告があった。また、次回委員会を第 31 回学術集會会期中の 5 月 30 日(木)に開催予定である旨、合わせて報告があった。

8) BP 製剤関連顎骨壊死検討委員会(米田委員長)

米田委員長より、BRONJ ポジションペーパー2012 年改訂版を発行し、現在までに製薬企業 16 社ならびに奈良県歯科医師会より計 192,243 部の購申申込みがあった旨、報告があった。

9) ステロイド性骨粗鬆症管理と治療のガイドライン改訂委員会(田中副理事長)

田中副理事長より、コホート解析が終了し、カットオフ値を 5 とした上でガイドラインの作成を進め、次回委員会を 6 月 30 日(日)に開催予定である旨、報告があった。

10) 椎体骨折評価委員会(宗圓理事)

宗圓理事より、評価基準の英語版が JBMM Vol.31 No.3 へ掲載された旨、報告があった。

11) 会員数増加検討委員会(田中委員長)

田中委員長より、主に以下の報告があり、了承した。

- ・学会で扱う領域の拡大を図るため、下記 2 名の先生を新委員として追加した。また、学際的・領域横断的なプログラムを学術集會で開催してもらうよう、杉本会長に提案する予定である。
- －浅原 弘嗣 委員(東京医科歯科大学医歯学総合研究科システム発生・再生医学)
- －中野 貴由 委員(大阪大学大学院工学研究科マテリアル生産科学専攻)
- ・次回委員会は第 31 回学術集會会期中の 5 月 30 日(木)に開催予定である。

12) 原発性骨粗鬆症の診断基準改訂検討委員会(宗圓理事)

宗圓理事より、診断基準の英語版が JBMM Vol.31 No.3 へ掲載された旨、報告があった。

3. 第 32 回日本骨代謝学会準備状況について(杉本第 32 回会長)

第 32 回プログラム委員会にて報告

4. 学会誌掲載論文の転載依頼について(米田理事長)

米田理事長より、前回理事会以降に依頼のあった、原発性骨粗鬆症の診断基準の転載依頼 23 件、骨粗鬆症の予防と治療ガイドラインの転載依頼 21 件(うち、関連著作物 2 件)、椎体骨折評価基準の転載依頼 7 件、JBMM 掲載論文の転載依頼 3 件、BRONJ ポジションペーパーの転載依頼 2 件について報告があり、了承した。

5. その他

a) 第 30 回日本骨代謝学会学術集會余剰金について(米田理事長)

米田理事長より、第 30 回学術集會の余剰金として 7,577,878 円が返金される予定である旨、報告があった。

b) 2013 IBMS Board of Directors Election 投票結果について(米田理事長)

米田理事長より、IBMS Asia/Pacific 地域の Directors 選挙が行われ、投票の結果、米田俊之理事長、福本誠二理事の 2 名が選出された旨、報告があった。

< 審議事項 >

1. 2012 年度収支決算報告書(案)について(福本理事)

福本理事より、2012 年度収支決算報告(案)について主に以下の報告があり承認した。

< 一般会計 >

一収入の部

- ・会費収入;正会員、学生会員が予算より約 250 万円の減収となった。
- ・科学研究費補助金;510 万円の採択があった。
- ・広告料;JBMM 広告掲載料、HP バナー掲載料として 2,677,500 円の収入があった。
- ・雑収入;主な収入として「骨粗鬆症の予防と治療ガイドライン 2011 年版」著作権使用料、QOL 評価質問表使用料、2012 年度複製使用料分配金、JBMM 通常許諾料、「ビスフォスフォネートの有用性と顎骨壊死」著作権使用料、文献許諾使用料があり、9,127,222 円の収入があった。
- ・JBMM 別刷販売;「骨粗鬆症の予防と治療ガイドライン 2011 年版」図版転載使用料、ビスフォスフォネート関連顎骨壊死に対するポジションペーパー(改訂追補 2012 年版)販売収入、ポジションペーパー図版転載使用料、JBMM 図版転載使用料、ステロイドガイドライン図版転載使用料など、16,850,924 円の収入があった。
- ・海外学会 Travel Award;2012 年度 Travel Award 寄付金として旭化成ファーマより 50 万円、第一三共より 50 万円の収入があった。

一支出の部

- ・学術集会補助金;第 31 回学術集会補助金として吉川会長へ 300 万円、5th Asia-Pacific Osteoporosis Meeting(2014 年開催)補助金として宗圓財務理事へ 300 万円を送金した。
- ・学会賞関係費;2012 年度学会賞の該当者なしのため、予算経費を下回った。
- ・会誌刊行費;ビスフォスフォネート関連顎骨壊死に対するポジションペーパー(改訂追補 2012 年版)制作費により支出が増加した。
- ・予備費;IOF 2012 年度年会費として 54,168 円、「骨粗鬆症の予防と治療ガイドライン 2011 年版」の英語版を英文誌 Archives of Osteoporosis へ投稿した際の投稿費用として 779,100 円の支出があった。
- ・海外学会 Travel Award;Travel Award 受賞者 22 名へ 1 名あたり 15 万円の Grant 送金を行った。

< 特別会計・国際学術交流基金 >

- ・利息収入があり、次年度繰越金は、44,799,359 円となった。

< 尾形賞基金 >

- ・2012 年度の尾形賞受賞者へ 20 万円を支出したため、次年度繰越金は利息分の 22 円となった。

2. 2012 年度会計監査について(松本監事)

松本監事より、太田・松本両監事がそれぞれ会計監査を行ない、帳簿、伝票および銀行口座残高など資料を確認した結果、経理は適正に執行されていることを確認した旨、報告があった。

3. 2013 年度予算(案)について(福本理事)

福本理事より、2013 年度予算(案)について、主に以下の報告があり承認した。

< 一般会計 >

一収入の部

- ・会費収入;正会員、学生会員、過年度会費とも納入率を上げ、増収とした。
- ・科学研究費補助金;2013 年度の科研費は不採択となった。
- ・広告料;現時点で申込みが確定している 10 社の JBMM 広告収入、および前年度のホームページバナー掲載企業 3 社分の掲載料を計上した。
- ・雑収入;JBMM 通常許諾料、複製使用料分配金、普通預金利息等を計上した。
- ・JBMM 別刷代・著作権料;各種ガイドライン、JBMM 転載使用料として既に請求が発生している約 400 万円を計上した。
- ・特別会計より繰り入れ;IBMS Society Member 会費(2013~2015 年度)として 10,000,000 円(1ドル=100 円として)を特別会計より繰り入れた。

一支出の部

- ・学術集会補助金;第 32 回学術集会補助金として 300 万円を計上した。
- ・送料・通信費;年会費オンライン決済システム手数料や BRONJ ポジションペーパー(2012 年度改訂版)運送費が発生することを見込み、10 万円を増額した。
- ・旅費・交通費;2013 年度学術集会の会期が例年よりも長いため、往復旅費および宿泊費を昨年より 6 万 5 千円増額した。
- ・HP・メーリングリスト費;学会ホームページの全面改訂に伴い 100 万円を増額した。
- ・海外学会 Travel Award;Travel Award 受賞者 11 名へ 1 名あたり 15 万円の Grant 支給を行うため、165 万円を計上した。
- ・IBMS Society Member 会費;IBMS Society Member 会費(2013~2015 年度)支払いのため一般会計への繰り入れとして 10,000,000 円を計上した。

< 特別会計・国際学術交流基金 >

一収入の部

- ・預金利息として 5,000 円を計上した。

一支出の部

- ・IBMS Society Member 会費(2013~2015 年度)として 10,000,000 円を計上した。

< 尾形賞基金 >

一収入の部

- ・尾形賞賞金として協賛企業の中外製薬(株)より 200,000 円が入金される予定である。

－支出の部

- ・2013 年度尾形賞賞金として 200,000 円を計上した。

4. 功労評議員の推薦について(米田理事長)

米田理事長より、2013 年 4 月以降に資格が認められる下記 3 名の功労評議員推薦があり、全会一致で承認した。

- － 軽部 俊二 評議員
- － 篠田 壽 評議員
- － 須田 昭男 評議員

5. 新評議員の推薦について(米田理事長)

梶 博史評議員、杉本利嗣評議員より山内美香先生の評議員推薦があり、全会一致で承認した。

6. 第 34 回(2016 年)学術集會會長選出について(米田理事長)

米田理事長より、2016 年度(第 34 回)学術集會會長について、外科系の担当であることから宗圓理事を推薦したい旨提案があり、全会一致で承認した。

7. 学会会則の改訂について(米田理事長)

米田理事長より、2014 年度より予定している年会費の値上げを受け、学会会則第 3 章「会員」第 6 条を一部改訂する提案が出され、下記の通り改訂(下線部箇所)することが承認された。

<改訂前>

第 3 章 会 員

第 6 条 本会の年会費は次のとおりとし、毎年度支払うものとする。

- 1) 正 会 員 9,000円
(1)ただし、60 歳以上の正会員は 10 年分を一括納入すれば、以後納入は免除されるものとする。
- (2)大学生、大学院生の年会費は 4,000円とする。
- 2)単年度会員 5,000 円
- 3)賛助会員 (1 口)100,000 円

<改訂後>

第 3 章 会 員

第 6 条 本会の年会費は次のとおりとし、毎年度支払うものとする。

- 1) 正 会 員 10,000円
(1)ただし、60 歳以上の正会員は 10 年分を一括納入すれば、以後納入は免除されるものとする。
- (2)大学生、大学院生の年会費は 5,000円とする。
- 2)単年度会員 5,000 円
- 3)賛助会員 (1 口)100,000 円

8. 2013 年度評議員会議事次第について(米田理事長)

米田理事長より、評議員会議事次第について提示があり、了承し

た。

■各種委員会■

<2013 年度第 1 回臨床プログラム推進委員会>

日 時: 2013 年 5 月 28 日(火) 8 時 30 分～9 時 30 分

場 所: 神戸国際会議場 4 階 会議室 404

1. 血清 25OHD 基準値の設定検討委員会について

岡崎委員より、上記の議題について、下記の通り報告があった。

- ・ビタミン D 欠乏症・不足症の診断ガイドライン作成に向けて、二次性副甲状腺機能亢進症の発生有無を検討するため、ロシュ社が 25OHD の測定キットを日本で申請している。
- ・測定キットの申請に合わせ、伊木先生(近畿大学)のコホートで 25OHD を測定した上で、日本人の骨密度・骨折・骨代謝マーカーとの関連データを算出し、骨粗鬆症におけるビタミン D 欠乏症・不足症の基礎データを作成している。
- ・上記の基礎データを元に、2014 年度を目途としてビタミン D 欠乏症・不足症の診断ガイドラインの作成を進めていく予定である。
- ・診断ガイドライン(案)を 2014 年に開催される厚生労働省の班研究で発表し、その後、骨代謝学会ならびに内分泌学会にてパブリック・コメントを収集する予定である。

2. 小児科における血清 25OHD 基準値の設定検討委員会について

大菌委員より、小児のビタミン D 欠乏症くる病・骨軟化症の保険適用に向けて、診断のカットオフ値の適正さについての最終回答を厚労省へ行っている旨、報告があった。

3. くる病・骨軟化症の診断マニュアルについて

福本委員より、骨代謝学会ならびに内分泌学会でのパブリック・コメントの収集が完了し、2014 年度までの完成を目指している旨、報告があった。また、完成後の診断マニュアルは両学会のホームページに掲載する予定である旨、合わせて報告があった。なお、本マニュアルの論文化、和文簡略版作成の有無については改めて検討することとした。

4. 軟骨マーカーについて

宗圓委員より、軟骨マーカーと疾患の活動性に相関が見られないことから、英文の論文化は進めているものの、研究については停止している旨の報告があった。以上のことから、2014 年度以降は本プロジェクトを終了し、萩野委員が担当するプロジェクトを共同で進めていくこととした。

5. エストロジェンと骨について

報告事項なし

6. 運動と骨
報告事項なし

7. その他

- ・福本委員より、副甲状腺機能低下症に対する PTH 注射剤の有用性の検証について、現状の治療法と比べた場合の有用性を挙げるのが難しく、治験の実施有無については引き続き検討中である旨、報告があった。
- ・大菌委員より、新たなプロジェクトとして候補に挙がっていた骨粗鬆症患者における低フォスファターゼ症の実態調査について、低骨量かつアルフォス値が 50 以下の症例数が少なく検証が難しい旨の報告があり、プロジェクトとして取り上げないこととした。

今後の学会開催予定

●第32回日本骨代謝学会学術集会

会期: 2014年7月24日(木)~26日(土)
 会場: 大阪国際会議場
 会長: 杉本 利嗣(島根大学医学部内科学講座内科学第一)
 テーマ: 骨代謝学の新たな展開ー基礎と臨床の融合ー
 ホームページ: <http://www2.convention.co.jp/32jsbmr>
 問い合わせ先: 主催事務局(32jsbmr@convention.co.jp)

●第33回日本骨代謝学会学術集会

会期: 2015年7月23日(木)~25日(土)
 会場: 京王プラザホテル(新宿)
 会長: 高橋 直之(松本歯科大学総合歯科医学研究所機能解析学講座)

関連学会の大会開催予定

●第10回 Bone Biology Forum

会期: 2013年8月23日(金)~24日(土)
 会場: 富士教育研究所
 (〒410-1105 静岡県裾野市下和田 656 TEL:055-997-0111)
 ホームページ: <http://www.bone-biology.com>
 共催: 帝人ファーマ株式会社

特別講演

- ① Matthew Warman 先生(Howard Hughes Medical Institute)
 - ② Richard Flavell 先生(Department of Immunobiology, Yale University)
 - ③ 岡野 栄之先生(慶應義塾大学医学部生理学教室)
- その他、一般講演・話題提供等

参加費: (一般)5,000円、(学生)無料
 問い合わせ先: 運営事務局(bbf2013@ac-square.co.jp)

●ANZBMS 23rd Annual Scientific Meeting

会期: 2013年9月8日(日)~11日(水)
 会場: Melbourne(Australia)
 ホームページ: <http://www.anzbmsconference.com>
 問い合わせ先: ANZBMS 23rd ASM Secretariat
 (lara@themeetingpeople.com.au)

●第39回日本整形外科学スポーツ医学会学術集会

会期: 2013年9月13日(金)~14日(土)
 会場: ウィンクあいち(名古屋産業労働センター)
 会長: 大塚 隆信(名古屋市立大学整形外科学教室)
 テーマ: 予防、治療、復帰、三位一体のスポーツ整形外科学をめざして
 ホームページ: <http://www.congre.co.jp/jossm2013/index.html>
 問い合わせ先: 主催事務局(jossm13@med.nagoya-cu.ac.jp)

●第121回中部日本整形外科学会・学術集会

会期: 2013年10月3日(木)~4日(金)
 会場: 名古屋国際会議場
 会長: 石黒 直樹(名古屋大学大学院医学系研究科整形外科学講座)
 テーマ: 整形外科のプロフェッショナルリズム
 ホームページ:
<http://www.his-brain.co.jp/chubu-seisai121/index.html>
 問い合わせ先: 運営事務局(chubu-seisai121@his-brain.co.jp)

●The ASBMR (The American Society for Bone and Mineral Research) 2013 Annual Meeting

会期: 2013年10月4日(金)~7日(月)
 会場: Baltimore, Maryland(USA)
 ホームページ: <http://www.asbmr.org/annual-meeting>
 問い合わせ先: 常設事務局(asbmr@asbmr.org)

●第15回日本骨粗鬆症学会 骨ドック・健診分科会

会期: 2013年10月11日(金)~13日(日)
 会場: 大阪国際会議場
 会長: 三木 隆己(大阪市立大学大学院医学研究科 老年内科学)
 テーマ: 骨粗鬆症継続治療のための総合的取り組み
 ホームページ: <http://www.osakaop.com/amjos2013>
 問い合わせ先: 主催事務局(amjos2013@osakaop.com)

●第27回日本臨床内科医学会

会期: 2013年10月13日(日)~14日(月)
 会場: 神戸国際会議場
 会長: 本庄 昭(兵庫県内科医会)
 テーマ: 今 内科医に求められるもの
 ホームページ: <http://www.conet-cap.jp/jpa2013/index.html>
 問い合わせ先: 運営事務局(jpa2013-hyogo@conet-cap.jp)

●第28回日本整形外科学会基礎学術集会

会期: 2013年10月17日(木)~18日(金)
 会場: 幕張メッセ国際会議場
 会長: 高橋 和久(千葉大学大学院医学研究院整形外科学)
 テーマ: Pleasure of Discovery
 ~新たな整形外科診療に向って~
 ホームページ: <http://www.chiba-joar2013.com>
 問い合わせ先: 本部事務局(JOAKiso2013@ouialive.co.jp)

●第16回癌と骨病変研究会

会期: 2013年11月15日(金)
 開催場所: 千代田放送会館
 参加費: (事前)4,000円 (当日)5,000円
 ・共催セミナー、特別講演、指定演題、一般演題
 ホームページ: <http://www.sec-information.net/jscbd/top.html>
 問い合わせ先: 運営事務局(jscbd@graffiti97.co.jp)

●World Congress on Debates & Consensus in Bone, Muscle & Joint Diseases

会 期: 2013年11月21日(木)~24日(日)
会 場: Brussels (Belgium)
ホームページ: <http://www.congressmed.com/bmjd>
問い合わせ先: 運営事務局 (bmjd@congressmed.com)

●第7回 骨・軟骨フロンティア (BCF)

会 期: 2013年11月30日(土)
会 場: ベルサール八重洲
共 催: 旭化成ファーマ株式会社
問い合わせ先: 主催事務局 (bc_frontier@mail.goo.ne.jp)

●IOF Regionals 4th Asia-Pacific Osteoporosis Meeting

会 期: 2013年12月12日(木)~15日(日)
会 場: Hong Kong (China)
ホームページ: <http://www.iofbonehealth.org/hongkong-2013>
問い合わせ先: 常設事務局 (info@iofbonehealth.org)

●第8回 Bone Research Seminar

会 期: 2014年2月14日(金)~15日(土)
会 場: 東京コンファレンスセンター
共 催: 中外製薬株式会社
ホームページ: <http://brs.umin.jp>
問い合わせ先: 運営事務局 (brs@ac-square.co.jp)

●第13回日本再生医療学会総会

会 期: 2014年3月4日(火)~6日(木)
会 場: 国立京都国際会館
会 長: 田畑 泰彦(京都大学再生医科学研究所 生体材料学
分野)
テーマ: 再生医療への科学技術インテグレーション

—再生研究と再生治療—

ホームページ:
<http://www2.convention.co.jp/13jsrm/index.html>
問い合わせ先: 主催事務局 (jsrm13@frontier.kyoto-u.ac.jp)

●ECTS 2014

会 期: 2014年5月17日(土)~20日(火)
会 場: Prague (Czech Republic)
ホームページ: <http://www.ectcongress.org/2014>
問い合わせ先: 運営事務局 (conferences@bioscientifica.com)

●第87回日本整形外科学会学術総会

会 期: 2014年5月22日(木)~25日(日)
会 場: 神戸ポートピアホテル、神戸国際会議場、神戸国際展
示場
会 長: 黒坂 昌弘(神戸大学大学院医学研究科・外科系講
座・整形外科学)
テーマ: 夢の実現: The Soul & Spirit of Orthopaedics
ホームページ: <http://www.joa2014.jp/index.html>
問い合わせ先: 運営事務局 (joa2014@congre.co.jp)

●第51回日本リハビリテーション医学会学術集会

会 期: 2014年6月5日(木)~7日(土)
会 場: 名古屋国際会議場
会 長: 才藤 栄一(藤田保健衛生大学医学部 リハビリテー
ション医学 I 講座)
テーマ: 実用リハビリテーション医学
—Practical Rehabilitation Medicine—
ホームページ: <http://www.congre.co.jp/jarm51/index.html>
問い合わせ先: 主催事務局 (jarm51@fujita-hu.ac.jp)

—IBMS Member Society 加入に伴う
メールアドレス登録のご案内—

日本骨代謝学会会員の皆様へ

日本骨代謝学会
理事長 田中 良哉
国際渉外委員会
委員長 福本 誠二

平素より学会への諸活動にご尽力を賜り、ありがとうございます。

さて、先日の日本骨代謝学会総会でもお知らせいたしました、本学会は International Bone and Mineral Society (IBMS)の Member Societyとして、少なくとも今後3年間は活動することとなりました。これに伴い、IBMSの公式雑誌であるBoneKEy Reportsへのアクセスや、IBMS関連学会参加費用の割引等のメリットを受けられることとなります(※1参照)。

ただし、IBMS事務局へ各会員のメールアドレスの登録を行いませんとIBMSの会員として認められませんので、上記のメリットを享受できません。個人情報保護の観点から、IBMS事務局に会員各位のメールアドレスを通知してよいかを本学会からメールでお尋ねしていますが、現状では半数以上の会員の先生方から返答を戴けていない状況です。

ちなみにIBMSへの費用は、日本骨代謝学会として負担しておりますので、IBMSへの会員登録により個人的な金額負担が増えることはありません。

1. IBMSの会員としてのメリットを享受するために、IBMS事務局へメールアドレスを通知してもよいとお考えの先生は、是非とも日本骨代謝学会事務局(jsbmr@ac-square.co.jp)にお知らせ下さい。
2. 既に本年度のIBMSの学会費を個人的にお支払いの先生には、返金が可能です。返金についての手続き方法については事務局(jsbmr@ac-square.co.jp)までお問い合わせください。

またIBMSとしましては、Member societyの会員の御意見を、今後の学会の運営に反映したいとの意向です。IBMSの今後の活動につき御希望がありましたら、是非とも御希望をお知らせ戴けますようお願い申し上げます。

<※1 IBMSの Society memberの特典>

- 1) BoneKEy Reportsへのフリーアクセス(※2)
- 2) BoneKEy Reports掲載論文のオープンアクセス料10%割引
- 3) IBMS選挙への投票権
- 4) IBMS関連学会参加費の割引
- 5) IBMSの各Awardへの応募資格付与
- 6) IBMS会員専用ページへのアクセス
- 7) Nature Publishing Group社発行の雑誌、書籍の割引

※2 IBMSの Official Journal は『Bone』から『BoneKEy Reports』に変更となりました。

【問い合わせ先】

日本骨代謝学会事務局

(TEL)075-468-8772 (FAX)075-468-8773 (E-mail)jsbmr@ac-square.co.jp

